

第52回「議員と語ろかい」報告書

(地域テーマ型：No.1)

開催日	令和8年7月29日(水) 19時00分～20時30分		
開催場所	霧島市役所 溝辺総合支所 会議室		
団体名	個人参加(溝辺地区)	参加人数	7人 (男5:女2)
出席議員	仮屋国治、塩井川公子、鈴木てるみ、野村和人、渡邊理慧 大坪元気、田中紗弥佳、町田和己		
役割分担	班長(野村和人)、副班長(町田和己)、記録係り(大坪元気)		
テーマ及び 具体的内容	地域の子どもと地元のつながり ～学校×地域のコラボを考える。親と子の「もっとこうして」をカタチに～		

意見交換での主な意見	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言 ◆昔は、もっと人口が多く、地域ごとのイベントもあり地域の方々とのコミュニケーションあったが今は子どもも少なく子ども会自体がない。 ◇多少強引でも公民館で子ども会を続けている事例もある。公民館長・役員・保護者が相互理解して運営している。 ◆大隅横川駅でイベントをするのは大変だが、それが地域のつながりになっていると思う。 ◆地域のつながりがいないのは子供たちが毎日忙しい。学校、学童、習い事もあり、地域のことに参加できる状況にない。地域内で知らない人も多く、子どもたちに挨拶すると不審者情報になる。 ◇現在、コミュニティスクールの会長をやっているが、いろんな課題があるので、いろんな方々と学校と地域とをつなげながら、保護者の方々と一緒にこの街を作っていくコミュニティを作っていきたい。ボランティアに思いがある方々を少しずつでも協力体制を作る仕組みを模索している。 ◆日頃から地域の人同士コミュニケーションをしていく必要があるんじゃないか。 ◆霧島市の教育方針が抽象的で、進むべき道が見えない。 ◇昨年から学校の在り方検討会議がやっと始まった。 ◆教員が足りないことや子どもが少ないために統合してもいいのではないか。 ◆教育方針に正解はない。ただ簡単に義務教育学級を作ればいいという問題だけではない。 ◆いろいろ賛否両論あったが地域に学校を残していくために、地域や学校の協力を得て、特認校にした（現在の竹子小） ◇校長先生でガラリと学校が変わってしまう。文化祭や宿泊学習がなくなるケースがある。学校が面白くないと楽しみがないので不登校の増加は一因はあるかと考える。
------------	---

意見交換での主な意見	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言 ◆空港を主軸に街づくりを進めるべき。移動手段の利便性が悪い。 ◇自動運転バスの利用ができないのかと大田区の事例を見たりしたが、安全面や財源の部分がネックになり難しい。 ◇少子高齢化の時代の流れでコンパクトシティの流れっていうのは、もう止められない流れなのかなと思う。 ◆霧島市がもっと子育てしやすい環境を整えて（保育料補助・免除）してくれたら、移住者も増えるのではないかな。 ◆プレイパークの提案 プレイパークとは、子どもが自分の責任で自由に遊ぶことをモットーに木登りや焚火、泥遊び、工作などを自分達の発想で楽しめる野外のあそび場 一般的な公園とは異なり、決まった遊具がない代わりに自然の素材や道具を使って主体的に遊べるのが特徴。溝辺町では、①こもれびの森②きりしまこども食堂サロン③毎月第三日曜日「こどもの第三のあそび場」④冒険あそび場「竹子の森」がある。霧島市市民活動支援事業を活用して「霧島プレイリーダー」の育成事業を開催していき、3年間で100人のプレイリーダーを育成し、市内の公園や校庭などで、子どもたちが安心してのびのび過ごせる環境をつくることを目的としています。主催は霧島市子どもの発達研究会。
-------------------	--